

『ミス・ダンデライオン』金久保知貴

青年が登場。手には本を持っている。

青年 彼女はタンポポのようでした。風が吹いたら飛んでいく。風の方へと飛んでいく。
気がついた時にはもう遅い。彼女は僕のそばにいないのだ。だから僕は本を書いた。
彼女のことを書いた、彼女のための本を——。
表紙を捲ると、そこにはこう書いてあります。

青年が本を開く。読み始める。

青年 「私はタンポポ。私は軽くて飛びやすいから、ずっとあなたのそばにいることは出来ない。風は休まずやってくるから、私も休まず住処を見つけるのです。」
本のタイトルは『ミス・ダンデライオン』。
彼女の名前はネモ。ネモはとても可愛らしい。有名なアニメキャラで例えるなら
ドラえもんのようです！

ネモ フフフフフフ……（可愛らしく）

青年 彼女です！

ネモが登場。（ネモはタンポポの妖精）

青年 こんにちは。

ネモ こんにちは。ウフッ。（と微笑む）

青年 これ。

ネモ なにこれ？ 私にくれるの？

青年 うん。

ネモ ありがとう。じゃあ頂戴—— ……キャー！

青年が本を差し出したその時、強い風が吹く。ネモが飛ばされる。ネモが退場。

青年 その時、風が吹いた。僕と彼女を突き放す悪魔の風が……。
残念ながら、渡しそびれてしまいました。でも彼女は風に乗ってまたここに来る。
その時のために、この本はここに置いていきます。

青年が本を地面に置く。立ち去ろうとする。そこへネモがやってきて本を拾う。ネモは青年を想い、青年もまたネモを想っている。〈幕〉